

あらた ひらかわ 新平川

宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長

未来への航路

本堂の基礎に 板碑と五輪塔が

イタリアの記録『伊達政宗遣欧使節記』には、宣教師ルイス・ソテロの証言として、伊達政宗が松島瑞巖寺の石造物をたくさん破壊したと記録されています。これらは海と川に投げ捨てられ、「キリスト教の神、万歳」という大きな歓声があがったと書かれています。

政宗は仙台開府にあたり、領内のいくつもの神社の大改修を実施しています。瑞巖寺もそのひとつです。神仏へのあつい信仰心をもって政宗は瑞巖寺を壮麗な姿で復活させたのでした。そんな政宗が境内の石像を破壊することなど考えられません。

そのため、この記事は信ぴょう性に欠けるといわれてきました。

支倉常長をヨーロッパに案内した宣教師のルイス・ソテロは大言壮語する傾向がありまして、政宗がキリスト教に傾倒していると印象づけるために嘘をついているのだといわれてきたのです。

ところが2008年から始まった瑞巖寺本堂改修工事で、床下から基礎部に使われていた板碑や五輪塔が発見されました。いずれも鎌倉時代以降、仏教で

②0 破壊された瑞巖寺の石造物

使われた石製の供養塔のことです。瑞巖寺本堂の地盤固めに板碑と五輪塔が使われていた

のですから、瑞巖寺を造るときにこれらの石像を破壊して利用したということになりま。政宗が瑞巖寺の石像を破壊したというソテロの証言は、嘘ではなかったのです。さらに驚かされたのは、東北学院大学の調査によって2009年に松島の霊場・雄島周辺の海底から、破壊された大量の板碑が発見されたことでした。500基以上の板碑が確認されたというのですから、大量破壊・大量放棄です。

明治末から大正年間にかけて松島公園の整備が行われ、雄島でも遊歩道が整備されていますので、そのときに海中に投棄されたのではないかとはいわれていますが、積然としません。政宗時代にも廃棄された可能性がありそうです。



瑞巖寺本堂基礎部に埋め込まれた板碑(『瑞巖寺境内遺跡』)



松島雄島の海底から採取された板碑(東北学院大学博物館HP「雄島板碑群の調査研究」)



瑞巖寺本堂床下の基礎(『瑞巖寺境内遺跡』)

全国各地でも

石仏を破壊

じつは伊達家の廟所(ひよつしよ)である瑞鳳殿の二代藩主忠宗の御霊屋(おたまや)でも、板碑を石材として利用していたのでした(瑞鳳殿ホームページ「遺跡の発掘調査に

なせこのようなことが行われたのでしょうか。急ぎの城郭建設のために手近な所にある石造物を使ったとか、石材が不足していたからだと解釈されています。神仏のたたりを怖れる先人たちが、平然と石造物を破却・転用することというのはどういふことでしょうか。石材が足りなかったからという理解でよいのでしょうか。16世紀は板碑供養が盛れ、個人墓が登場するとも指摘されています。そうした宗教観の変容とも関係しているように思われます。



ひらかわ あらた 昭和25年、福岡県出身。東北大学名誉教授。館長に就任した。

東北大学災害科学国際研究所の所長などを経て、平成26-31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史、歴史資料保全学。令和4年4月に、3代目のサン・ファン館長に就任した。